


## ■はじめに

東京オリンピック・パラリンピックのキーワードの一つに、「エンゲージメント」があります。「エンゲージメント」とは、「自分事として自発的に参画する意識をもつこと」といった意味で、運営方針の一つとして、2012年のロンドン大会から注目され始めた言葉です。例えば、今回の東京2020大会でアスリートに授与されるメダルを使用済みの金属から製作する「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」もそうした理念から行われたものです。



こうした話を聞くと、1300年前に大仏造立を呼び掛けた聖武天皇の「如し更に人有りて、一枝の草、一把の土を持ちて、像を助け造らむことを情に願はば、恣にこれを聴せ」という言葉を思い浮かべます。聖武天皇は、一人一人の力は小さくても、多くの人々の力を集めて大仏を

 <p>都市鉱山からつくる！ みんなのメダルプロジェクト</p>	<p><b>(聖武天皇)</b> 如し更に人有りて、一枝の草、 一把の土を持ちて、像を助け 造らんことを情に願はば、 恣にこれを聴せ。</p>
<p>金 約 3.2 kg 銀 約 350.0 kg 銅 約 220.0 kg</p>	<p>夫れ、天下の富を有つは朕なり。 天下の勢を有つは朕なり。 この富と勢とを以て、 この尊き像を造らむ。 事成り易くし、心至り難し</p>

造ることを呼びかけました。そこには、「此の富と勢とを以て、此の尊き像を造らむ。事成り易くし、心至り難し」という聖武天皇の思いがありました。東京2020年大会の「エンゲージメント」の精神と、この聖武天皇の思い、それを受け継いできた人々の思いはつながっているように感じます。

## ■「奈良で学んだことを誇らしげに語れる子」を育てるには

昨年、ユーグレナ社のCFO 募集の話を紹介しました。私の話を入り口にして、校園長先生自身で調べ、深堀をして自分ごととして捉えてほしいです。そして、自分の中で一度咀嚼し、それぞれの学校園の取組に反映させ、先生方や子どもたちに直接伝えてください。

今年も3月に修二会研修を行います。何年も前に、ある校長から研修後に手紙をいただき

<p>1250年以上も続いてきたこの行事を、一度も絶やさず続けてきた先人たちの姿勢を伝えていくことが大切なことではないかと考えています。</p>	
--	---

ました。手紙には、お堂の中での感動体験と、それを子どもたちに伝えていかなければという意気込みが綴られていました。人は「すごい」と思ったことは誰かに語らずにはいられません。そのためには本物を見て、触れて、深く知ることが大切です。そのためにも、こういった研修に参加してほしいです。

## ■目の前に迫ってきているタブレット1人1台時代の教育

7年前の平成25年7月の校園長会では、6月に閣議決定された『第2期教育振興基本計画』の前文の中にある「何もしないことが最大のリスクである」という言葉を引用し、「ICT機器の進化は、日進月歩であり、この波は、すぐに学校教育の中にも押し寄せてくるだろう。」と話をしました。当時、市内すべての小中学生にiPadを配付した佐賀県武雄市の事例を紹介し、「ノートや教科書と一緒にタブレットをもって授業するようになったとき、教員が対応しきれるのか。まさに、その準備と意識改革が、今、求められている。」と話をしました。今、まさにこうした時代になったのです。

こうした時代の流れからは、幼児教育も逃れることはできません。0歳児の23%、1歳児から5才児の40%前後がスマホを利用しているとの調査（東京大学大学院情報学環・橋元良明教授と電通イノベーションラボとの共同調査より）もあり、1歳児であってもスマホやタブレットをスワイプしたり、ピンチアウトしたりすることができます。

幼児教育については、これまでから非認知能力を育てていくことの大切さを話してきました。京都大学教授・西村和雄先生の論文を引用して、幼児期に「うそをつかない」「他人に親切にする」「ルールを守る」「勉強をする」の4つのモラルをしっかりと受けてきた人は倫理的にも社会的にも成功するという話を紹介したこともあります。このことから幼児教育で大切にする原点はこれまでと変わりませんが、子どもたちは園を離れて家庭に戻ってしまえば、スマホやタブレットに囲まれた社会で生きています。子どもにとって何が大切なのかということを議論し、見極め、保護者と連携しながら対応してほしいです。

## ■ICT環境は手段であって目的ではない、タブレットは道具に過ぎない

文部科学大臣メッセージ（令和元年12月19日）には、次のようにあります。

忘れてはならないことは、ICT環境の整備は手段であり目的ではないということです。子供たちが変化を前向きに受け止め、豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手をして、予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成していくことが必要です。

それぞれの学校園でこうしたデジタル機器とどのように賢く付き合っていくのか、どう効果的に活用していくのかということを議論し研修を行うなど、具体的な準備を進めてください。教員が時代に乗り遅れるということは、子どもたちが時代から取り残されるということです。タブレット一人1台時代の教育を自分事として捉え、今すぐ、準備を進めてください。